

春日部福音自由教会 2020年3月29日 主日礼拝 庄和会堂  
聖書朗読 ルカ23章39節～43節  
『今日、わたしとともに！』小野信一牧師

おはようございます。

たいへんな状況のなか、今日は寒い日でもあり、このようにして集まることができたことを感謝するとともに、家で礼拝をささげようとする人も増えているでしょう。そのような中、いま聖書が朗読されました。私たちは聖書の言葉に耳を傾けてまいりましょう。

ルカの福音書23章39節から43節までが朗読されました。「あなたは今日、私とともにパラダイスにいます」というイエス様のおことばを、私たちは今日、ここで聞かせていただきたいと思えます。

もう一度ここで、お祈りをささげましょう。

天にいらっしゃる、私たちの父なる神さま、御名をあがめます。

今、日曜日の朝を迎え、あなたの前に出て、礼拝をささげます。

礼拝堂に集まることが出来た者もおりますし、

家にとどまって家で祈り、礼拝をささげようとする者たちもあることを覚えております。

神さま、私たちひとりひとりを、あなたが顧みてくださいますように。

変わることはない、真実と慈しみの御手をもって導き、

変わることはない、眼差しを注ぎ続けてくださいますように。

今ここにいます私たちを、主よご覧ください。

私はここにおります。あなたの言葉を、聞かせてください。主イエスキリストの御名によって、お祈りします。アーメン

いま、新型コロナウイルスの感染の拡大が、日本だけでなく、世界中で広がっていて、ある意味では、世界がひとつなんだな、ということであらためて感じます。

この線路の向こうに見えるドラッグストアにも、朝並んでいる人が見えますし、春日部中央に向かうユリノキ通りのドラッグストアにも人が並んでいますし、ニュースでも色んな国で同じようにしている人たちがいる。同じことで、苦しんだり、恐れたりしている。

私たちは、よくも悪くもなんですけど、ひとつなんだな、同じ星の上に住んでるんだな、ということを感じます。

白人だから病気にかかるということもなく、黒人だから病気にかからないということもなく、富んでいる人も貧しい人も歳をとった人も若い人も、同じように病気にかかる可能性がある。

そういう中で、特に、病気を持っている人や、高齢の人が重症化する可能性が高いので、そのために、全体で気をつけなければならない、という状況に、私たちは置かれています。

よくも悪くも、私たちは同じ人間であり、つながっているんだな、と思うのですが、それと同時に今は、人間と人間が触れあわないように、距離を取るよいうということに、気をつけている状況にあります。

日本だけでなく、世界の都市で、町や村で、不安になる心があるのだと思います。

皆さんの中にも、やっぱり不安になることがあるかもしれません。イライラや、怒り、恐れがわいてくる。

様々な思いを、同じようにこの星の上で、多くの人が抱えています。そういう中で苦闘する人がいます。迷う人がいます。もしかしたら暴走する人もいるかもしれません。

そういう中に、いま私たちは置かれていることを思います。

ガリラヤの湖の舟の場面、嵐の場面を思い出します。

「先生、私たちは死んでしまいます。私たちが死んでもかまわないのですか？」舟の上で一緒にいてくださるんですけれども、眠っているイエス様に弟子たちは言います。

イエス様は、起き上がって、「だまれ、静まれ」と風に言う。その場面を思い出します。

「どうして怖がるのですか、まだ信仰がないのですか」とイエス様はその時、言われました。

「風や湖まで言うことを聞くとは、いったいこの方はどなたなんだろうか」弟子たちは言ったんですね。

イエス様は、風に、波に、「だまれ、静まれ」と言われました。

旧約聖書に、「静まって、私こそ神であることを知れ」というみことばがあることを思い出します。

私たちも、静まって、神こそが、イエス様こそが、神であることを知らせていただきたいと思います。

風が来ました。そしてそのあとで2度目の嵐がやってきます。その時イエス様は、舟の上になくて、水の上を歩いて近づいて来られます。そして言われました。「しっかりしなさい、わたしだ、恐れることはない。わたしである、わたしがここにいる」と言ってくださいました。

この今の状況はどのように収束するでしょうか。

そのとき世界に、何が起こっているでしょうか。

どんな変化がこれからあるでしょうか。

イエス様は「しっかりしなさい、わたしがいる、恐れるな」と言ってくださいます。

今日は十字架の場面、十字架の上の言葉、「今日、わたしは、あなたとともに、パラダイスにいます」というイエス様のみことばを聞きたいと思います。

「今日」と、イエス様は言われました。

犯罪人がそこにいます。イエス様といっしょに右に左に十字架に架けられた犯罪人たちがいたのです。

その場面のみことばを、聞かせていただきたいと思います。

今日の中心は、42節と43節の、犯罪人とイエス様の対話です。その前に少し前から見てみましょう。ふたりの犯罪人との会話、対話があります。

「お前は、キリストではないか。自分を救ってみろ、そして俺たちを救え」と、片方の犯罪人が言います。

イエス様の十字架の時に周りの色んな人たちが「自分を救ってみろ、自分を救えないのか」と言ったのです。

「お前は救い主だって言ったんじゃないのか、ならば自分を救ってみろ、それも出来ないのか、俺たちのことも救ってみろ」そう言います。自分を救わないイエス様に向かって、そういうことを言った人たちがいたんですね。

その時、もう一人が言います。「お前は神をおそれないのか、同じ刑罰を受けているのに、俺たちは、当然の報いを受けている。オレもおまえも罪人だ」と言うのです。そしてこう言います。「だがこの方は、悪いことを何もしていない」

これは驚くべき発言だと思います。一種の信仰の告白、「この方は特別な方だ、正しい方だ、ふつうの人間じゃない」と言っていることになるわけですね。「この方は何も悪いことをしていない」そしてここから、この犯罪人とイエス様との対話が始まっていきます。

「イエス様、あなたが御国に入られるときには、私のことを思い出してください」と言うのです。

御国の、王国の、これは、御国となっていますけども、あなたの国、あなたの王国という意味ですね。

「あなたの王国に入られるとき、私を思い出してください。イエス様、あなたは、御国の王国の王になる方です」と告白しているということです。

私たちは、イエス様を誰だと思って、告白するでしょうか。イエス様を誰だと思って祈るのでしょうか。

今日この、42節のイエス様〈への〉言葉、そしてイエス様〈からの〉言葉、十字架上の七つの言葉で対話になっているのは、この一つだけなんですね。対話になっているというか、呼びかけに答えているのは。

イエス様に、呼びかけた言葉、私たちも、今日それを読み、そして、ただ、そういう昔の人の言葉を読んだ、というだけではなくて、私たちも今日、イエス様との対話に招かれている、イエス様が今日、私たちと対話しようとしてくださっている、私たちがイエス様を呼んで、呼びかけてお願いするならば、イエス様はこたえて下さるんだということを、今日、覚えましょう。私たちもそれをさせていたいただきたい、させていたくださいませ。

まず、この人が言ったことは、「イエス様」と呼ぶことです。ああ昔、十字架の上で、死刑になる途中に「イエス様」って呼んだ人がいたんだなって、昔、そういう人がいたんだなって思うだけではなくて、今日私たちは、今ここでひとりひとりが、「イエス様」って呼びましょう。

聖書の中の言葉、聖書の中の叫び、聖書の中の祈りを、私たちが、同じようにイエス様に向かって叫ぶとき、祈るとき、聖書が自分の祈りになっていきます。これはほんとに短い祈りというか、最後の叫びのようなものです。

「イエス様、あなたが御国に入られるとき、私を思い出してください」それだけの言葉です。

まず、「イエス様」と呼びましょう。今日今ここで、ひとりひとりが心の中で、「イエス様」と呼びましょう。

そして、今週一週間どんな一週間になるのかわかりませんが、生活をしていく中で、恐れが来たときに、不安が来たときに、「イエス様」と呼びましょう。

そして、この人は「あなたは御国に入られます。あなたはあなたの御国に入られます」と告白したのです。

「何も悪いことをしてないけれども十字架で死んでゆき、この方の王国に入っていられる王になる方」なんだって告白したのです。

私たちはイエス様を、どういう方だと思って、告白するでしょうか。

イエス様を、どういう方だとして信じて、祈るでしょうか。

私たちも告白しましょう。

あなたは、御国に入られる方です。

あなたは、あなたの王国の王です。

あなたは全能の主です。

あなたは、迷える小羊、右も左も分からない、何をしているのか分からない私たち、この地球上の人間たちをあわれんでくださるお方です、と。

私たちも今日、告白し、また一週間の生活の中で、イエス様、私はあなたのことをこういう風に信じています、と告白しましょう。

そして、願いました。「私を思い出してください。」

ここに対話があります。

私たちも、イエス様と対話をし、今日ここで対話をし、そして一週間の生活の中、様々な変化、不安、落ち着かない心の中、イエス様と対話しながら過ごしましょう。

「俺たちは、自分のした報いを受けているんだ」ってこの人は告白していましたよね。

「自分は犯罪人です。自分は死刑になって死んでいこうとしています。こういう私を思い出してください。こんな人間がいたことを忘れないでください。あなたのお心に留めてください」と彼は願いました。

私たちも、色んな状態がありますけども、そして自分の心の状態もどんどん変わっていくような感じがするかもしれませんが、その中で「今ここにいる私をイエス様思い出してください。リメンバー・ミー、私を忘れないでください。今ここで、恐れている、悩んでいる、迷っている私をご覧ください。私を捨てないでください。私を心に留めてください。」そう、願いましょう。

今日の交読文は、読むことは省略することにしましたが、詩篇の51篇でした。

これはこの十字架上の犯罪人が「私を思い出してください」と言ったのに似ているように思います。

「私をあわれんでください、キリエ・エレイソン、主よ、私をあわれんでください」という、これはダビデの祈りです。ダビデが人生の中で、もっとも大きな罪を犯しもっとも大きな失敗をしたときに、祈った祈りです。

「私をあわれんでください。そして私を捨てないでください、あなたのみ前から投げ捨てないでください」と祈ったんですね。十字架上の犯罪人、二人いま

した。少なくとも一人は、「私を捨てないでください、私を忘れないでください」と願いました。私たちもそのように、呼び、叫び、願います。

イエス様は、こたえてくださいます。43節です。

「まことに、あなたに言います。あなたは、今日、わたしとともにパラダイスにいます」

「アーメン、まことです。これをあなたに言います。あなたは、今日、わたしとともに、います」

これがイエス様の約束です。

「あなたは、今日、わたしと共にいる。わたしと共にパラダイスにいる。」それがイエス様の、約束です。

ある意味では、この犯罪人にとっては、人生の終わりの時を迎えているわけです。

十字架刑というのは、ふつうは1日で終わらずに、ふつか、みっかも苦しんで死んでいく、長い時間苦しませるといふ、そういう厳しさのある刑だったということです。

なので、松木先生は、ルカの説教集があるのですけれども、十字架刑はいちにちで終わらず、ふつか、みっかと苦しむことが多かったのです。これは今日というのは、死後という意味ではないのではないか、と言っていました。

この人はおそらく、安息日があるので、おそらくその日のうちに亡くなるわけですが、それでも、「今日」というのは必ずしも、死んだあとという意味ではないんだそうです。

私たちにもこの日が人生最後の日だという日がいつか来ます。でも、その日まで待たなくても、今日言えるのです。

「イエス様、私を思い出してください、私を心に留めてください」と。

そして、いつまでこの世で生活するとしても、今日という日を、最後の日になってもいい日として、「イエス様私を思い出してください」と呼びかけます。するとイエス様が、こたえてくださいます。

「あなたは、今日、わたしと共にいる」という約束。

今日私たちはそれをイエス様の約束として聞かせていただきましょう。

「今日あなたは、わたしと共に、いる。」

そしてこれは、イエス様の命令とも招きとも聞くことができます。

「今日、あなたはわたしと一緒にいなさい。そうすれば、あなたは大丈夫だ。

今日、わたしと一緒にいて、安心しなさい。」

こう言ってくださいます。

そして、今日あなたはわたしと共にいる、と言われたあとに、

「パラダイスにおいて」ということを言ってくださいました。

「パラダイスで一緒にいるんだ」と言ってくださったのです。

これは、「あなたは今、いるべき所に帰ったんだよ」ということでしょう。

「今あなたは、本来いるべき所にいるんだ、造り主、父の懐にあなたは今かえった。」

パラダイスというのは楽園という意味でしょうけれども、

「あなたは、神と共にいる楽園、神と共に安心してることが出来る場所、そこに今かえったのだ。わたしと一緒にいる、ということはそういうことなんだよ」とイエス様がこたえてくださいます。

パラダイスという言葉は、もとはペルシャの言葉のようですが、なにか高い庭で囲まれた庭園のことだったそうです。

許された人しか入れない楽園で、管理されていて、きれいに整えられている。そして誰もが入れるわけではなくて、門があり、許可された人しか入れない。そういう特別な場所というのです。

ナルニア国物語の最後の1冊が、「さいごの戦い」という本ですが、ずーっと旅をして、もっと先へもっと高くと言って旅を続けて、最後の到着地に、高い塀がある庭園のような場所に着くんですね。そしてその門が開くという、とても感動的なクライマックスの場面があります。

あ、パラダイスってそういうイメージなんだなって思いました。

パラダイスにいるっていうのは、私たちにとって、人間にとって、エデンの園にかえる、というようなものなのかもしれません。神と一緒にいて安心できる場所、そこに帰ることができる。

パラダイスがそういうものであるならば、  
「今日、あなたはわたしと一緒にパラダイスにいる」  
イエス様は、まだ生きているときに、その犯罪人に約束してくださいました。

イエス様と対話をして、  
イエス様と向き合って、  
イエス様といっしょにいる。  
そこが、パラダイスであり、  
そこが、神の国です。

永遠のいのちとは、何でしょうか。

永遠のいのちは、死後はじまる、と、私は以前思っていました、そうではなくて、「永遠のいのちは、今日のはじまることが出来るものなのだ、あなたが今日、わたしと共にいるのなら、永遠のいのちが今日のはじまるのだ」とイエス様が言うてくださるのだ、ということに、気がつくようになりました。死の日まで待つ必要はないのです。

今日、生きはじめましょう。

私たちの教会には、受験が終わってこれから新しい学校、これからの人生だという人もいますし、たとえば、癌という病気になって、病気と闘っている人たちもいます。その両方の人たちに、同じように呼びかけたいと思うのです。今日、このいのちを生きはじめましょう。死の日まで待つ必要はないのです

「今日、私を思い出してください。私を心に留めてください」と呼びかけましょう。

そして今日から、「あなたはわたしと一緒にいる、イエス様といっしょにいる」といういのちを生きはじめましょう。

今ここで、私たちひとりひとりがイエス様の名前を呼んで、イエス様の声を聞き、あなたはわたしと一緒にいる、という約束のおことばを聞かせていただくならば、それが、パラダイスです。約束の国です。

神の前に安心していられる、ここに神の国があるのです。

嵐の中でも、風の中でも、どちらでも、そこでイエス様と共にいるなら、それがパラダイスであり、そこそが私たちのいるべき場所、かえるべき居場所です。ほんとうの、あなたの居場所、私たちのかえるべき場所です。

神と共にいて安心出来る、喜びの場所なのです  
いまたとえ熱が出たとしても咳が出たとしても、息が苦しくなったとしても、そしてたとえ息絶えるときがきたとしても、病気であっても、健康であっても、そこに主イエスと共にいます。

たとえ死の陰の谷をとおりとしても、そこでイエス様とともにいます。

神のもとで安らいでいられる、そこがパラダイスなのです。

永遠のいのちは、死後はじまるいのちではありません。今日、はじまります。  
私たちが、今日「イエス様」と呼び、今日イエス様と対話し、イエス様といっしょにいるなら、今日、永遠のいのちがはじまっています。この肉体、この死ぬべき体、この世この世界この地球のなかにあつて、もう今ここで、イエス様と一緒にいるのです。永遠のいのちを今生きているのです。

週報の中に、「新型コロナ・ウイルス拡大防止対応のためのお知らせ その3」という3月27日に発信したものをそのまま載せました。教会の方も置かれた状況の中でいろいろあると思う、そのような中で、ある意味「教会の皆さんへ」ということで、私から教会の皆さんへのお手紙のようなものです。そして、祈りを書きました。

どう祈ったらいいか分からない、分からなくなってしまうことがあるのではないかと思います。その時に、このような祈りを一緒に祈っていただければと思って、教会が共に心を合わせて祈れるように、私の祈った祈りをそこに記しました。出来るならば、一緒に祈ってください。

今週も、それぞれの生活の中で、出来るならば教会のために、世界の人々のために、家族のために、お互いのために、そう祈っていきましょうということで、そのようなことを記させていただき、発信させていただき、週報にも載せさせていただきました。私も迷ったり恐れたりこれでよかったのだろうか、間違った判断をしていないだろうかと考えます。でも、考えて何かを決めていくことをし続けていかなければならないと思います。

共に祈っていただければ、感謝です。

「今日、生きはじめなさい、今日、わたしと一緒にいなさい」とイエス様は、言ってくださいます。

最後に、週報に掲載させていただいた祈りを共にしたいと思います。

「あなたは今わたしと共にいる、だから大丈夫だ」とイエス様がいま言ってくださる、その声が聞こえるならば、私たちは大丈夫なのです。

「あなたは今日、わたしと共にいる」主の声を今日、私たちは聞いています。

祈りましょう。

「春日部と教会の皆さん、そしてご家族が、この病気にかかりませんように、うつすことはありませんように。教会が感染の場となることはありませんように。神がお守りくださいますように。

いま、世界と日本とこの街で、この病気にかかり、治療を受けている方たちが支えられ、いのちが守られますように。主がお癒しくくださいますように。

治療や、感染を防ぐため、また治療薬やワクチン開発のために日夜働いている医療従事者、研究者たちが支えられ、力を与えられ、健康に働くことができ、持てる力を発揮できますように。

それぞれの場で、難しい判断を迫られる、政治、行政、学校や職場、各国の各分野の責任者たちが守られますように。

残念ながら亡くなられた方たちのご家族に、天からの慰めがありますように。

教会の皆さんの家族が守られますように。

教会の家族が、共に祈る共同体として、心を一つにすることができますように。

全能の父なる神と、御子主イエス・キリストと、慰め主なる御霊が、この嵐に揺れる船の中で、揺れる世界の中で、私たちと共にいて下さいますように。主イエスキリストの御名によって、お祈りします。アーメン」